

*Johann Sebastian Bach*  
***KLEINE KLAVIERSTÜCKE***

バッハ ピアノ小品集

Menuett BWV Anh.114

Menuett BWV Anh.115

Marsch BWV Anh.122

Menuett BWV 822 - 7

Menuett BWV 822 - 5

Menuett BWV 822 - 6

Marsch BWV Anh.124

Marsch BWV Anh.132

Musette BWV 808 - 6

Marsch BWV Anh.127

Gavotte BWV 811 - 6

Gavotte BWV 808 - 5

Menuett BWV 820 - 3

Gavotte BWV 816 - 4

Menuett BWV 813 - 5

*Edited by Mayumi Ichihana*

## バッハ ピアノ小品集について

現在、初心者向けのピアノ曲集として広く親しまれ、またコンクール課題としても、よく用いられています「バッハ ピアノ小品集」の中には、15曲の小品と「6つの小前奏曲」が収められていますが、ここでは15曲の小品のみを掲載致しました。この15曲のうちの多くは、バッハの色々な組曲の中から採られています。また、バッハの作品であるか疑わしい曲や明らかに息子のカール・フィリップ・エマヌエル・バッハの作品と分かっている曲6曲も含まれています。この6曲は、「アンナ・マクダレーナのためのクラヴィーア小曲集」第2巻の中から採られていることにもよります。アンナ・マクダレーナは、バッハの後妻で、才能豊かな声楽家であり作曲家でした。そして、バッハの良き妻で、前妻の子供達の世話も献身的に行い、暖かい家庭を築いたと記されています。そんな家庭の中から生まれた作品とも言えます。

### メヌエット ト長調/ト短調 BWV Anh.114~115

ト長調のメヌエットとト短調のメヌエットは、互いに関連を持ったもので、ト短調がト長調の第2メヌエットと考えられます。「クラヴィーア小曲集」第2巻の第4曲、第5曲で、作曲者は不明です。

### マーチ ニ長調 BWV Anh.122

メヌエットと同じく「クラヴィーア小曲集」第2巻の第16曲の行進曲です。作曲は、カール・フィリップ・エマヌエル。軽快な行進曲です。

### メヌエット ト長調/ト短調/ト短調 BWV 822の7、5、6

組曲ト短調BWV822に含まれる3曲のメヌエットです。ト長調は、8小節ずつの三部分形式の簡素ではありますが優雅なメヌエット。ト短調の2曲は、上声部と下声部をそっくりそのまま交換した形で作られている一対を成す作品です。

### マーチ ト長調 BWV Anh.124

「クラヴィーア小曲集」第2巻の第18曲の行進曲です。この曲も、マーチ ニ長調 BWV Anh.122同様に、作曲はカール・フィリップ・エマヌエル。トランペットの音を思わせる快活な行進曲です。

### メヌエット ニ短調 BWV Anh.132

この曲も「クラヴィーア小曲集」第2巻の第36曲です。短九の和音や十度の跳躍を持った趣きのある曲です。

### ミュゼット ト長調 BWV 808の6

「イギリス組曲」第3番ト短調の第2ガボット。ミュゼットは、元々フランスの民族楽器の名称ですが、後にこの楽器の伴奏で踊られる舞曲の事も呼ぶようになりました。バグパイプに由来する低音の持続音(G音)は、この楽器の特徴を出したもので、牧歌的な気分を持った曲となっています。

# Menuett

メヌエット

Allegretto (♩=112)

BWV Anh.114

The musical score for Menuett in G major, BWV Anh. 114, is presented in five systems. Each system consists of a treble and bass staff. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is 3/4. The tempo is marked Allegretto with a quarter note equal to 112 beats per minute. The piece begins with a piano (*p*) dynamic. The first system shows the initial melodic line in the treble and a simple accompaniment in the bass. The second system continues the melodic development. The third system features a mezzo-forte (*mf*) dynamic and includes a repeat sign. The fourth system returns to piano dynamics and shows more complex melodic patterns. The fifth system concludes the piece with a final cadence and a repeat sign. Fingerings and articulation marks are clearly indicated throughout the piece.